

令和6年度の事業結果と評価概要

		対象者	介入者	評価指標	評価実績	
ハイリスクアプローチ	糖尿病性腎症重症化予防	糖尿病とフレイル	61人	53人	①対象者への介入率 [目標80%] ②介入前後の検査値変動(体重、血圧等)または生活習慣改善有無 [目標維持改善率60%] ③対象者のうち、治療開始につながった人	①介入 48人 (89.6%) ②改善・維持 43人 (79.6%) 悪化 5人 (10.4%) ③治療開始 1人
		コントロール不良者	5人	5人	専門医紹介や治療開始につながった	医療につながった 5人 (100%)
	その他の生活習慣病等重症化予防	R6健診	12人	12人	医師との連携による治療状況 [目標80%]	100.0% 治療開始3・専門医紹介2・経過観察2 服薬調整5
		受診勧奨(糖以外)	9人	9人	対象者への介入率 [目標100%]	治療状況の把握 9人 (100%) 治療開始 2
	健康状態不明者	69人	69人	健康状態不明者のうち訪問等で状況確認できた割合	100%	
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談	44グループ	681人	①実施回数・参加者数 ②介入前後の生活習慣改善有無 [目標・維持改善率60%]	①44か所(100%)85回681人 ②R5:70.9%/R6:84.8%	
	フレイル状態の把握	44グループ	360人	体力測定及び基本チェックリストによりフレイル状態に	該当者32人に訪問を実施	
	気軽に相談できる環境づくり	3グループ	1,422人	3地区の老人福祉センター等にて健康相談を実施した		

- ・医療機関との連携により、治療状況の把握につながった。
- ・何回訪問しても不在で介入できない方もいるため、その対策を検討する必要があると感じている。
- ・訪問の際、高齢者支援センターとの連携が必要なケースが多いため、事前に情報を共有し訪問することができた。
- ・引き続き、広報連載等により広く普及啓発を図ることで、事業への理解を促進し一定程度の理解を得ることができた。

事業の広がり



健康づくり推進協議会で取り組みについて報告

※様々な意見ができました

内臓脂肪症候群該当者及び予備群の割合 総数 男女別 伸び率

	05-28			男性	05-28			女性
	H21	H28	R05		H21	H28	R05	
全体								
穴水町	33.3	30.9	37	6.1				
かほく市	31.3	30.2	35.7	5.5	44.8	45.4	55.8	
小松市	26.7	29.3	34.4	5.4	42.8	46.4	55.7	
能美市	25.7	28.9	33.4	4.5	48.1	48.1	56.1	
					41.4	47.7	55.6	

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施^①

① 65歳以上を占める割合が29.0%、うち75歳以上^②が58.4%と半数以上を占める現状。^③
高齢者人口の増加し、社会保障費(医療・介護費)の増高抑制や適正化を目的に実施する。^④

※健診受診者から見える課題として^⑤
BMI25以上の割合が多い^⑥
非肥満者の高血糖割合が多い^⑦

血圧、血圧・血糖の有所見者割合が多い^⑧

※し・セプトによる受診状況より^⑨
人工透析・高血圧の変診状況が高い^⑩
腎不全・心疾患の1件あたりの入院金額が高い^⑪



かほく市の健康課題について子どもから高齢者までの意見交換を実施しました。特に肥満予防について各団体での取り組みや意見交換を実施しました

R6年度も昨年に引き続き取り組んでいます

生活習慣病発症・重症化予防



①ベジメータを活用

※ベジメータとは、皮膚カロテノイドを測定することで、日頃の野菜摂取状況を把握できる機器

自分の野菜摂取量を見える化し、食習慣の改善を図る。

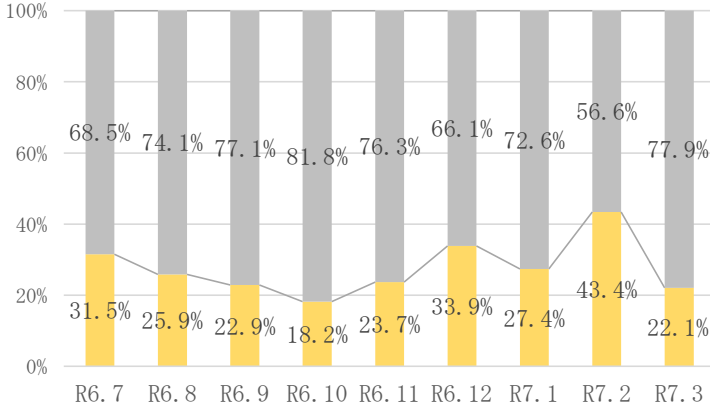
歯周疾患検診の拡充 (R5~)

【20・25・30・35・40・45・50・55・60・65・70・76歳】
歯周疾患検診
*下線部はR5年度拡充

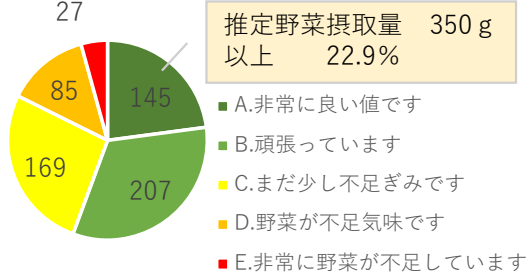
令和6年度結果 (R5年度~実施)

85会場 5,226名に測定した結果
平均ベジスコア384 推定野菜摂取量303gでした。
目標の350gに及ばない現状です。

推定野菜摂取量350g達成率



ベジメータ測定結果判定の分布 R6敬老会 (392人)



■ 推定野菜摂取量350g未満

※冬場に推定野菜摂取量が増加傾向にあります

看護大との連携によるeスポーツ体験



③ eスポーツ体験

外出機会の創出と高齢者等の交流や生きがいづくりを促す

3会場 57名に実施
看護大学との共催事業で実施